

桐生市・みどり市認知症ケアパス作成プロジェクト 第1回全体会議 議事録

日時：令和6年5月16日（木）19:00～21:00

会場：桐生メディカルセンター 地下講堂

（参加者）計20名（別紙参加者名簿参照）

司会：高橋副会長・前川理事

1 挨拶

高橋副会長：認知症ケアパス作成にあたり、専門家、多職種が集まっている。この機会を利用して、各委員の顔を知り会話をしてお互いの人となりを知ってすすめていけるとありがたい。

- ・資料確認：小川より配布資料、参考資料の確認

2 自己紹介（省略）

3 議事

(1) 認知症ケアパスとは…香取より

認知症の人の状態に応じた適切なサービス提供の流れをまとめたもの。認知症の人や家族がいつ、どこで、どのような医療や介護サービスが受けられるのか認知症の容態に応じたサービス提供の流れを、各市町村でまとめたもので、各市町村で作成している。参考資料を添付しているので確認ください。

(2) 認知症ケアパス作成プロジェクトの事業の流れについて…小川より

（→別紙 認知症ケアパス作成プロジェクトの流れ を参照）

(3) 認知症ケアパスのイメージについて（委員の皆さま全員からご意見を頂戴します）

桐生厚生連携室 武井さん

- ・市民の方がちょっと使ってみようか、相談してみようかと思えるもの。
状況によって使えるサービス、医療機関受診のタイミング、どんなところに受診したらよいか、進行度によってどんな対応をすればよいか、制度もあるとよい。
- ・認知症の心配のある方、自宅での生活に心配が残るときや退院面談の時に家族に渡し活用したい。

恵愛堂病院 山口さん

- ・認知症症状がみられていても生活に支障のない方が多く、入院し環境が変わることで進行してしまう。早期発見できるよう、家族の意識、受け止めることの啓発。
- ・地域へ帰った際の相談場所、内服調整、接し方についてのツールになるとよい。

日新病院 阪下さん

- ・認知症疾患医療センターとしての役割が、認知症ケアパスにどのくらい入るのか。桐生市も既存のものがありみどり市も共通認識のものがあるので、なぜ今？という疑問がある。どのくらいまでアプローチするのか、会議に参加しながら役に立てればと考えている。

桐生厚生病院 Ns 橋本さん

- ・院内スタッフからケアや対応について相談をうけるが、院内にいるため地域サービス情報がわからず困ってしまうことがある。院内に共通パンフレットがないので、その都度対応している。認知症ケアパスがあると、退院した先の生活についての想像ができ統一して、本人、家族に説明ができる。

東邦病院 Ns 堀米さん

- ・院内スタッフから接し方の相談を受ける。
- ・今あるものはうまく活用できていないイメージ。患者さん、家族に対してこんな流れがあるということを、はっきり示すことができるものだと、指導しやすい。

菱風園 松井さん

- ・当事者（本人）と支援者が同じ情報を共有できるツール。チェックリストは本人もチェック出来ると将来の不安を軽減するツールとなる。
- ・内容はわかりやすく使いやすいもの。表現も考慮することがポイント

留意点キーワード

- ・見やすさ
- ・負の印象、不安をあおる表現を控える
- ・使いやすい情報量
- ・わかりやすい表現
- ・丁度良い大きさ
- ・チェックリストは本人がチェックできる表現が望ましい
- ・どの項目もボリューム調整が重要
- ・丹野さんの言葉「自分たちは必要な所に手が届けば何でもできる」そこに向けて使えるものになったらよい。

サンロイヤル広沢 中村さん

- ・家族からの相談を受けると不安を抱えていて、認知症＝施設の考えの方が多い。環境を整えれば在宅で過ごせると思う方もいる。認知症に対する理解を共有して不安を解消できるもの、専門職だけでなく、一般の人にもわかりやすく使いやすいものがよい。

ケアマネ協会 櫻井さん

- ・誰が見てもわかりやすいものであると、周りの人が気づき、住民意識が高くなるのではないか。
- ・認知症と診断されても安心できるような書き方（周りのみんなが支えてくれるから大丈夫と思えるもの）
- ・本人、家族と情報共有できるもの。

みどり市社協 鈴木さん

- ・協議体で地域の課題を月に1回話し合いをしており、認知症の方の見守りをどうするかについて話し合っている最中である。専門的なものをつくるとみてもらえないので、より地域の人に届きやすいチラシが作れるとよいと話し合っている。会議に参加することで一緒にすすめていけるよう協力したい。

桐生市社協 大嶋さん

- ・住民、民生委員との関わりが深く、いろいろな相談の際活用したい。相談しにくい方に向け、市民の方がそっと手に取れるような、話し合いの場でも手に取ってもらえるとよい。文字の大きさ、文章量も会員の声を生かしていきたい。

包括東 梅澤さん

- ・認知症への不安をもっている本人の不安を払拭するような内容がよい。内容はボリュームも考え、地域で本人、家族が生活を続けていけるような、地域ならではの情報が多く盛り込まれるとよい。

包括山育会 渡辺さん

- ・家族の会の方は地域の方に認知症のことを公表し、地域で見守ってもらっている。地域の支えにつながる内容が盛り込まれるとよい。
- ・本人の声を入れること、本人のポジティブな言葉を入れることで認知症のイメージが変わって来るのではないか。

包括菱風園 峯岸さん

- ・今までのケアパスは活用できていなかった。本人、家族が活用しないと勿体ない。
- ・手に取りやすく、わかりやすいものであることが必要。

みどり市 楠木さん

- ・活用できるもの、その後使えるもの。
- ・認知症になっても安心して希望を持って生き生き暮らせる、家族だけでなく本人も納得できるもの。
- ・相談窓口を知っている人が少ない。早期発見につながるような情報も盛り込み、若い世代へも考えるきっかけとなるもの。

桐生市 石塚さん

- ・認知症ケアパス完成から時間が経過し、認知されていない状況なので見直し、作成はありがたい。
- ・「認知症になっても大丈夫」というスタンスが大前提と再認識したのでその方向性で取り組む。

高橋先生

- ・エンディングノートを作った時はここより狭い会議室であった。広い会場だと思ったことが言えない。顔をよく知っているメンバーの意見に対し、別の視点から面白い意見が出るのが考えられるので、コア会議はこじんまりとした感じでやり取りができると面白いものができるのではないか。

前川先生

- ・診療していて、認知症を受け入れてもらうのは難しい面がある。認知症ケアパスを利用しながら本人、家族に認知症をわかっていただき、受け入れていただけたらありがたい。わかりやすく、簡単なものがよいと思う。

ケアマネ協会 小沼さん

(体調不良により欠席)

事務局

- ・想像以上に難しい課題となった。
- ・本人を中心としたものとしたいが、詳細は事務局にて検討。
- ・ネガティブな言葉、読んで不安になるような書き方、項目、色、印象が不安にならないよう、でも、必要な情報は載せないといけないという状態だが、素案を作っていくたい。

(4) 桐生市・みどり市認知症ケアパスの項目(案)について…小川より

(→別紙 認知症ケアパス項目(案)参照)

Q.日新病院 阪下さん

①なぜ今なのか？

→桐生市では平成 28 年に作成。作成した当初は興味を示していた。みどり市はケアパスはないが、リーフレットで対応していた。

連携センターでは二次医療圏で市民の方が活用する社会資源も被っているので、共有のものがあるとよいと考えていた。基本法を機にはあるが、医師会の医師にも認知してもらおう形で作ればと考えている。

②国の指針が基準になるのか、独自のスタイルでつくるのか？方向性を見出せばコア会議でいろいろな意見が出て来るように感じる。

→参考資料をつけているが、桐生みどりオリジナルのものを考えている。

Q.高橋医師

①一冊に盛り込む必要があるのか？一冊に盛り込むのはかなり大変である

- ・本人側の和らげるタイプ
- ・周囲の人が発見しやすくするためのもの

- ・困っている家族が活用できるもの
という分け方をしてもよいのでは？

Q.松井さん

①高橋医師の意見 本人だからほしい情報と家族だからほしい情報は一緒ではない。家族は認めたくない。3つの視点があってもよいのではと思うが、スケジュール的に難しいのではないか。

②阪下さんの意見 3つの基本の意識をした方がよいのではないか。

家族は今後どうなっていくのか予後に興味がある

3つの柱を意識し、本人側、家族側、全部一つにするのか、どこに決めていくのかを考える。

Q.日新病院 阪下さん

- ・町田市認知症カフェ見学

同じような冊子あり、どう共有していくのかまで考えると、スケジュールが厳しい。その辺を踏まえて事務局がスケジュールリングしてもらえるとありがたい。

A.事務局

千葉県松戸市の認知症ケアパスは数冊となっている

たくさん種類があつていいのだが、どれを選んだらよいかわからないので、事務局としては1冊でと考えていた。皆さんの意見で3冊セットがいいのかどうか、再度検討させてもらいたい。

1冊の際の情報量、3冊の際のスケジュール。素案が出来れば検討いただけと思うが、3冊の内容がどのくらいになるのかによってスケジュールの問題はある。完成の11月に向けて、再スケジュールリングする。

Q.事務局

3冊になった際、時間差で発行するのはどうか。

A.阪下さん

病院側の立場だと、どこへ支援をつなげるかがわかっていた方がよい。施設側は困ってしまうと思うが、その辺のバランスを考えてほしい。

石塚さん

- ・行政の立場としては市民中心に考えてほしい。

鐘木さん

- ・製本は？

→自前で印刷。製本すると内容変更が難しい。

- ・更新は？

→社会資源が変わった時、法制度が変わった時

梅澤さん

活用する場面は医療機関より地域が多いと思う。タイムラグはない方がよい。

渡辺さん

本人の声が入るとよい

峯岸さん

市民と医療機関の判断は難しい

松井さん

他のものは、認知症の診断、種類について入っているものが少ない。

基本形は入れた方がよいのではないかな。

阪下さん

認知症状の方を調べたら、別疾患が見つかったケースあり。

どこまで細かく診断したらよいのか

診断に関してはそんなに細かくしなくても、つなぐ先がわかればよいのではないかなと思う。

(5) 認知症ケアパスにおける「チェックリスト」について…香取より

※チェックリスト以外に追加する項目についても確認

- ・チェックリスト集（伊勢崎市、館林邑楽地区、前橋市、大阪府堺市、東京都新宿区、富岡市）
フローチャート集（静岡県沼津市、千葉県松戸市）に沿って説明
- ・桐生市のケアパスにも掲載があるが、本人にとってはチェックしづらいものである。
- ・事務局では前橋市チェックリスト + 千葉県松戸市の相談フローチャート の形がよいと思っている。もちろんそのまま使用するのではなく独自のものを作成する予定であるが、項目として入れてもよいかどうかを確認。

鈴木さん

- ・内容、対象をどうするのか、どこにポイントを絞るのか

本人か家族かで意見が分かれる。分量の考慮、イラストを入れるとよい。

大嶋さん

- ・チェックリストは、同じことを聞くにも表現を変えないと不安になってやらなくなってしまう危険を感じるので、本人向けと家族向け、両方あったほうが良い。イラストもあったほうがよい。

櫻井さん

- ・言葉はポジティブに、表現をわかりやすく。ポジティブを前面に押していく。
みんなが共有できるもの、ひとり暮らしの方をみんなで支えていけるようなものになるとよい。

事務局

チェックリストも種類があったほうが良いのか、再相談して提案する。

4 その他

- ・コア会議について
コア会議出席者の確認。→名簿○印の方、オブザーバー阪下さん
コアメンバー優先で日程調整を行う。
案内は全員にメールで周知。日程があればコアメンバー以外も参加いただく。
コア会議の議事録、追加資料等はメール送信、ホームページ、クラウドで共有する。

※第1回コア会議 6月14日（金）14:00～16:00

桐生市総合福祉センター 101 会議室

桐生市・みどり市認知症ケアパス作成プロジェクト 第1回全体会議参加者名簿(5/16)

No.	氏名	所属	職種等	備考	出欠
1	高橋 厚	桐生市医師会	副会長	副委員長	○
2	前川 佳彰	桐生市医師会	理事	委員長	○
3	峯岸 康大	桐生市地域包括支援センター菱風園	社会福祉士		○
4	渡辺 幸恵	桐生市地域包括支援センター山育会	主任介護支援専門員 チームオレンジチューター		○
5	梅澤 亜紀	みどり市地域包括支援センター東	保健師		○
6	大嶋 桂子	桐生市社会福祉協議会	生活支援コーディネーター		○
7	鈴木 美幸	みどり市社会福祉協議会	生活支援コーディネーター		○
8	櫻井 栄太	群馬県介護支援専門員協会 桐生・みどり支部	介護支援専門員		○
9	小沼 説雄	群馬県介護支援専門員協会 桐生・みどり支部	介護支援専門員		欠
10	武井 祐介	桐生厚生総合病院 地域医療連携室	医療ソーシャルワーカー		○
11	山口 利佳	恵愛堂病院 地域医療連携室	医療ソーシャルワーカー		○
12	阪下 潤一	認知症疾患医療センター日新病院	連携室長		○
13	橋本 綾子	桐生厚生総合病院	認知症看護認定看護師		○
14	堀米あすか	東邦病院	認知症看護認定看護師		○
15	松井 泰俊	特別養護老人ホーム菱風園	認知症介護指導者 チームオレンジチューター	コア会議リーダー	○
16	中村 安孝	養護老人ホームサンロイヤル広沢	認知症介護指導者		○
17	石塚 幸子	桐生市健康長寿課	保健師		○
18	鎬木 早苗	みどり市介護高齢課	保健師		○
19	小川 貴之	在宅医療介護連携センターきりゅう	管理者	事務局	○
20	香取 麻里	在宅医療介護連携センターきりゅう	認知症地域支援推進員	事務局	○
21	田村 伸子	在宅医療介護連携センターきりゅう	看護師	事務局	○
22	大崎由美子	在宅医療介護連携センターきりゅう	事務員	事務局	—

(敬称略)

認知症ケアパス作成プロジェクトの流れ 議事録(5/16)参考資料

令和6年5月16日	第1回全体会議	事業目的の共有・方向性の確認
-----------	---------	----------------

↓

令和6年6月14日	第1回コア会議	ケアパスに掲載する項目の検討
-----------	---------	----------------

14:00~
桐生市福祉センター

認知症ケアパス素案作成

5/16 全体会議での
委員の意見を参考に細かい
部分の検討

令和6年7月 日	第2回コア会議	素案の修正点・追加項目の検討
----------	---------	----------------

↓

認知症ケアパス素案修正

※認知症ケアパスのプレテスト使用・アンケート

(委員の皆さまに、同僚、友人、家族、利用者等に試験的に試していただく)

↓

令和6年9月 日	第3回コア会議	デザインも含め最終検討
----------	---------	-------------

色、大きさ、フォント等の検討

↓

令和6年10月 日	第2回全体会議	ケアパスの最終確認、今後の予定
-----------	---------	-----------------

認知症ケアパスの最終調整(第1版完成)

↓

(令和6年11月)広報きりゅう・広報みどり・マスコミで周知／ホームページへの掲載

(同時にフォーラムの周知も行う)

(令和6年11月)桐生市医師会例会での配布及び行政からの主旨説明

医療機関、居宅介護支援所、地域包括支援センター等関係機関へ配布(郵送)

↓

(令和6年12月)桐生・みどり地区認知症フォーラムの開催(仮)

日時:12月21日(土)10:00~

桐生市文化会館 スカイホールにて開催

運営側に会の名称を入れることへの了承

委員の皆様は運営側での参加のお願い。後日相談させていただきます。

随時メールにて情報共有・意見交換

認知症ケアパス項目(案) 議事録(5/16)参考資料

I 認知症の知識 →他での情報でもよいのではないかと項目に載せるかどうか考慮する

○認知症の特徴(類型)

○認知症ともの忘れの違い→前橋市認知症ケアパス参照 P3

→家族の視点である

II 予防に関すること

○運動、食生活、交流の大切さ→水戸市認知症ケアパス参照 P4→本人視点となっている

P6→専門用語あり細かい

III 認知症の方への接し方

○周囲の人が心がけること→千代田区認知症ケアパス参照 P5~6→イラストが多く読みやすい

足りないと感じるがイメージつきやすい

○具体的な接し方→水戸市認知症ケアパス参照 P5→大項目が2つ。市民に寄せた内容でわかりやすい

IV チェックシートなど

○チェックシート エビデンス、本人も活用できるもの →家族だけではなく本人もチェックできるもの

○フローチャート→松戸市認知症ケアパス参照 →相談のためのもの。一覧だとわかりにくい。

本人、家族が悩んだ時にわかってもらうもの

V 受診の必要性・重要性

○早期受診のメリット

○受診時のポイント→前橋市認知症ケアパス参照 P6~7 市民目線でわかりやすい(家族寄り)

受診のコツ、ポイントが載っているとよい

VI 認知症ケアパス

○見開きで作成 シンプルかつ見やすく、単語は市民が理解できるもの→桐生市 P5 見やすい

情報量はどうか？

VII 相談窓口・社会資源

○桐生市・みどり市地域包括支援センター

○行政(桐生市・みどり市)

○認知症疾患医療センター

○その他 →情報量が多いと相談先がわからなくなる

社会資源はどうするか？